科目名	看護概論Ⅰ	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義	1年

担当者	亀田まゆみ	資　格	専任教員	実務経験	有・無	時　間	25時間

授業の目的・ねらい

看護の概念・理念・本質を学び発達段階や生活者としての人間、障害の概念や健康施策、在宅に向けた継続された退院支援、医療安全・感染管理・個人情報の保護・看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を学習する。

生徒の到達目標

1．看護の概念および本質とはなにか、看護の対象である人間とはどんな存在であるか、看護がなにを目的とし、どのような方法で行われるかについて考えることができる。

2．看護の歴史、概念や理論、医療専門職としての看護職の役割や責任・倫理などを理解できる。

授業概要（授業計画）

第１編　看護・人間・健康の理解

1．
2．　第１章　看護のとらえ方
3．　第２章　対象の理解
4．　第３章　患者心理の理解とその必要性
5．　第４章　健康の概念
6．　第５章　看護活動

7．
8．　第２編　看護提供をとりまく環境・システム
9．　第１章　病院組織と看護体制
10．　第３章　職業と看護
11．　第４章　健康を守る保健医療福祉のしくみと看護
12．

13．　筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門5　　看護概論

参考書

看護者の基本的責務　2022
看護の基本となるもの

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	看護概論Ⅱ	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義・演習	２年

担当者	田淵正実	資　格	看護教員	実務経験	有・無	時　間	10時間

授業の目的・ねらい

災害看護とはなにかを理解し、緊急災害時に必要となりうる基礎的な知識を養う。
医療安全の基本を学び、臨床における対策の理解を深める。

生徒の到達目標

1．災害看護の基礎知識を理解できる。
2．医療安全の基礎知識を理解できる。

授業概要（授業計画）

1．
2．　災害看護
3．
4．　医療安全
5．演習
筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門5　　看護概論

参考書

看護者の基本的責務　2022
看護の基本となるもの

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	看護と倫理Ⅰ	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義	1年

担当者	田淵正実	資　格	看護教員	実務経験	有・無	時　間	15時間

授業の目的・ねらい

看護の歴史を学ぶことで、看護の発展の過程を理解し、これからの看護を考える視点を養う。

生徒の到達目標

1．看護の変遷を年代ごとに整理できる。
2．今後の看護の課題と展望を記述できる。

授業概要（授業計画）

第１章　看護職に求められる倫理

1．
2．　Ⅰ　看護職にとっての倫理
3．
4．　Ⅱ　看護の場における倫理
5．
6．　Ⅲ　看護におけるケアの倫理と倫理原則
7．　Ⅳ　現代医療の場で求められる看護師の倫理
8．　筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門5　　看護概論

参考書

看護者の基本的責務　2022
看護の基本となるもの

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	看護と倫理Ⅱ	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義	２年

担当者	田淵正実	資　格	看護教員	実務経験	有・無	時　間	20時間

授業の目的・ねらい

看護職として求めらる倫理の基礎を学ぶ。
事例を用いて、倫理上の問題を考える力を養う。

生徒の到達目標

1．看護の概念および本質とはなにか、看護の対象である人間とはどんな存在であるか、看護がなにを目的とし、どのような方法で行われるかについて考えることができる。
2．看護の歴史、概念や理論、医療専門職としての看護職の役割や責任・倫理などを理解できる。

授業概要（授業計画）

1．第２章　看護の場で生じやすい倫理上の問題とその対応
　Ⅰ　倫理上の問題が生じやすい背景
　Ⅱ　事例検討

第３章　看護の変遷（看護史）
Ⅰ　看護史を学ぶ意味
Ⅱ　古代文明の発祥と医療・看護の形成
Ⅲ　中世から近代にかけて看護のあゆみ
日本における看護の変遷
9. 現在の看護と課題
10. 筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門5　　看護概論

参考書

看護者の基本的責務　2022
看護の基本となるもの

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	看護に共通する基本技術	(必修)・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義・演習	1年

担当者	青野容子	資　格	看護教員	実務経験	(有)・無	時　間	10時間
担当者	田渕正実	資　格	看護教員	実務経験	(有)・無	時　間	40時間

授業の目的・ねらい

・看護提供の基本となる技術の手技を学ぶ。
・看護師どうし、多職種との連携の基本となる記録と報告の方法を学ぶ。
・看護の思考方法である看護過程の考え方を学ぶ。

生徒の到達目標

1．看護技術提供における観察項目を述べることができる。
2．バイタルサイン測定を学内で行える。
3．記録と報告に必要な情報を説明できる。
4．看護過程の考え方を述べることができる。

授業概要（授業計画）

＜田渕正実＞

1．
2．
3．
4．
5．
6．
7．　序章　看護技術とは
8．　第１章　看護技術の基本
9．　　Ⅰ　コミュニケーション
10．　　Ⅱ　観察
11．　　Ⅲ　バイタルサイン
12．　　Ⅳ　身体各部の計測
13．
14．
15．
16．
17．
18．
19．実技チェック
20．筆記試験・まとめ

＜青野容子＞

21．　第２章　日常生活に対する援助技術
22．　　Ⅳ　感染予防の技術
23．　第１章　看護技術の基本
24．　　Ⅴ　記録と報告
25．筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門６　　基礎看護：基礎看護技術

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、演習評価、筆記試験などで評価する。

科目名	日常生活を支える援助技術	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義・演習	1年

担当者	山内　幹	資　格	看護教員	実務経験	有・無	時　間	40時間
担当者	青野容子	資　格	看護教員	実務経験	有・無	時　間	40時間

授業の目的・ねらい

・日常生活に対する援助方法を学ぶ。
・環境調整の意義を理解する。
・事故防止の対策、病院内の事故・災害を学ぶ。
・感染予防の技術を理解し、実践できることを目指す。
・ボディメカニクスの重要性を理解する。

生徒の到達目標

1．看護行為に共通する技術の意義、種類、実践方法を理解できる。
2．患者のニーズと日常生活の援助の基本について理解できる。
3．患者の安全を守るための環境整備、事故防止、感染予防の技術が実践できる。
4．日常生活における動作と運動を援助する技術を実践できる。
5．衣服、食事、排泄、清潔の意義と、それらに関連する援助技術を実践できる。
6．活動と休息を促す技術、褥瘡の予防について理解できる。

授業概要（授業計画）

＜青野容子＞

1.〜7.　第２章　日常生活に対する援助技術
　Ⅰ　日常生活に対する援助
　Ⅱ　環境調整の技術
8.〜9.　実技チェック
11.〜19.　Ⅷ　衣生活の援助
　Ⅺ　清潔の援助
20.　筆記試験・まとめ

＜山内　幹＞

11.〜39.　第２章　日常生活に対する援助技術
　Ⅴ　姿勢と動作
　Ⅵ　体位変換の援助
　Ⅶ　移動・移送の援助
　Ⅸ　食生活の援助
　Ⅹ　排泄の援助
　Ⅻ　活動と休息のための援助
40.　筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門６　　基礎看護：基礎看護技術

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	診療に伴う援助技術Ⅰ	(必修)・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義・演習	1年

担当者	田渕正実	資　格	看護教員	実務経験	(有)・無	時　間	20時間

授業の目的・ねらい

・主な検査の内容を理解し、その補助を理解する。
・画像診断のための検査法を学習する。

生徒の到達目標

1．主な検査の内容を理解し、その補助を理解できる。
2．画像診断の検査法を種類別に分類できる。

授業概要（授業計画）

1．
2．　第３章　診療に伴う看護
3．　　Ⅰ　診察
4．　　Ⅱ　主な検査
5．　　Ⅷ　罨法
6．　　ⅩⅤ創傷管理と包帯法
7．　第２章　日常生活に対する援助技術
8．　　ⅩⅢ褥瘡予防のための援助
9．
10．筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門６　　基礎看護：基礎看護技術

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	診療に伴う援助技術Ⅱ	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義・演習	２年

担当者	山内　幹	資　格	看護教員	実務経験	有・無	時　間	30時間
担当者	重見友子	資　格	看護教員	実務経験	有・無	時　間	15時間
担当者	武田有紀	資　格	看護教員	実務経験	有・無	時　間	15時間

授業の目的・ねらい

看護を実践するうえで基本となる知識・技術を学ぶとともに、診察に伴う準備や介助・処置が正確かつ円滑に実施できる基礎的知識、技術を習得する。

生徒の到達目標

1．各種の診療方法と介助の仕方を理解し実践できる。
2．主な検査法と検査時の看護について理解できる。
3．与薬、輸血、経管栄養法など、診療に伴う基本的な看護技術が実践できる。

授業概要（授業計画）

＜山内　幹＞

1．〜14．
- 第３章　診療に伴う看護
- Ⅵ　経管栄養法
- Ⅶ　中心静脈栄養法
- ⅩⅢ吸引
- ⅩⅣ吸入
- ⅩⅥ診療・処置に用いられる物品の種類と取り扱い方
- Ⅺ　洗浄
- Ⅻ　穿刺

15. 筆記試験・まとめ

＜重見友子＞

1．〜7．
- Ⅳ　与薬
- Ⅴ　輸血

8. 筆記試験・まとめ

＜武田有紀＞

1．〜7．
- Ⅸ　浣腸
- Ⅹ　導尿

8. 筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門６　　基礎看護：基礎看護技術

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	患者の心理	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義	２年

担当者	片山養子	資　格	養護教諭	実務経験	有・無	時　間	20時間
担当者	山内　幹	資　格	看護教員	実務経験	有・無	時　間	15時間

授業の目的・ねらい

・患者の心理を理解し、その支援を学ぶ。
・経過から患者の心理の特徴を理解し、治療を受ける患者の心理を学ぶ。
・療養の場ごとに患者の心理変化をとたえる。
・医療従事者の心理的な問題と対応を理解する。

生徒の到達目標

１．保健医療現場面における患者、医療従事者の心理の基礎について理解できる。
２．対象別にみた患者の心理的特徴とその対応について理解できる。
３．患者の心理を理解するための基礎知識を理解できる。

授業概要（授業計画）

第２編　患者の心理

＜片山養子＞

１．　序章　患者の心理の理解と看護
２.～５.第１章　人の心理と心の健康
６.～７.第２章　患者の心理の理解と支援
８.～９.第６章　医療従事者の心理
10.　筆記試験・まとめ

＜山内　幹＞

１.～２.第３章　経過別にみた患者の心理
３.～４.第４章　治療を受ける患者の心理
５.～６.第５章　療養の場からみた患者の心理
８.　筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門６　　基礎看：基礎看護技術

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	臨床看護概論Ⅰ	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義	1年

担当者	山脇増朗	資　格	看護師	実務経験	有・無	時　間	15時間

授業の目的・ねらい

様々な健康問題を持つ患者への基本的な看護を学ぶ。
臨床看護に必要な知識・技術・技術を統合して応用するプロセスを学習する。

生徒の到達目標

1．さまざまな健康状態にある患者とその家族について理解できる。
2．看護師の働くさまざまな場における看護について理解できる。
3．日常の診断においてよく用いられる治療・処置の概要と看護師の果たす役割が理解できる。

授業概要（授業計画）

1．第１章　臨床看護の特徴
　Ⅰ　臨床看護とは
2．Ⅱ　臨床看護の場
　Ⅲ　看護師の役割と機能
　第５章　治療・処置に伴う看護
3．Ⅰ　安静療法を受ける患者の看護
　Ⅱ　食事療法を受ける患者の看護
4．Ⅲ　薬物療法を受ける患者の看護
　Ⅳ　輸液療法を受ける患者の看護
5．Ⅴ　放射線療法を受ける患者の看護
　Ⅵ　手術療法を受ける患者の看護
6．Ⅶ　精神療法を受ける患者の看護
　Ⅷ　臨床検査を受ける患者の看護
7．Ⅸ　救急処置を受ける患者の看護
　Ⅹ　ICUの看護
8．　筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門７　　基礎看護：臨床看護概論

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	臨床看護概論Ⅱ	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義・演習	２年

担当者	谷口慎也	資　格	看護師	実務経験	有・無	時　間	25時間

授業の目的・ねらい

様々な健康問題を持つ患者への基本的な看護を学ぶ。
臨床看護に必要な知識・技術・技術を統合して応用するプロセスを学習する。
臨床で行われる治療・処置の特徴を理解する。

生徒の到達目標

１．治療・処置の特徴を理解し、それらを受ける患者の看護のポイントを説明できる。
２．治療・処置の基礎となる医学的知識を説明できる。

授業概要（授業計画）

１．第２章　臨床看護活動と患者・家族の理解
　　Ⅰ　患者の理解
２．Ⅱ　家族の理解
　　第３章　健康障害の経過に伴う看護
３．Ⅰ　健康障害の経過と看護
４．Ⅱ　健康の保持・増進・予防の看護
５．Ⅲ　急性期にある患者の看護
６．Ⅳ　回復期・リハビリテーション期にある患者の看護
７．Ⅴ　慢性期にある患者の看護
８．Ⅵ　終末期（人生の最終段階）にある患者の看護
９．Ⅶ　危篤時～死後の看護
10～12　　・・・心肺蘇生法・ＡＥＤ演習
13.　　筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門７　　基礎看護：臨床看護概論
メヂカルフレンド社　看護学入門７　　特論：治療法概説

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	臨床看護概論Ⅲ	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義	２年

担当者	西川紀恵	資　格	看護教員	実務経験	有・無	時　間	30時間

授業の目的・ねらい

症状・機能障害という観点から病態をとらえ、それに対する看護のポイントを理解する。

生徒の到達目標

１．主要症状の病態生理と障害の概要、患者の看護の要点が理解できる。
２．主な症状の患者の特徴と生活への影響を記述できる。

授業概要（授業計画）

第４章　主な症状に対する看護
1.　Ⅰ　貧血のある患者の看護
Ⅱ　出血傾向のある患者の看護
Ⅲ　ショック状態の患者の看護
ⅠＶ　咳嗽・喀痰のある患者の看護
Ⅴ　呼吸困難のある患者の看護
ⅤⅠ　悪心・嘔吐のある患者の看護
ⅤⅡ　嚥下困難のある患者の看護
ⅤⅢ　排尿障害のある患者の看護
ⅠＸ　排便障害のある患者の看護
Ⅹ　黄疸のある患者の看護
ⅩⅠ　脱水のある患者の看護
ⅩⅡ　浮腫のある患者の看護
ⅩⅢ　発熱のある患者の看護
ⅩⅣ　痛みのある患者の看護
ⅩⅤ　感覚障害のある患者の看護
ⅩⅥ　意識障害のある患者の看護
14.　ⅩⅦ　不安・抑うつのある患者の看護
15.　筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門７　　臨床看護概論

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	成人看護概論	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義	1年

担当者	曽根みゆき	資　格	看護教員	実務経験	有・無	時　間	10時間

授業の目的・ねらい

「エリクソンの発達課題」「ハヴィガーストの発達課題」それぞれの発達段階と課題を説明できる。
立案された看護計画に基づき、心身の苦痛の緩和および日常生活の自立、自律に向けた療養生活に対応する。

生徒の到達目標

1．成人期の生活における健康問題について理解できる。
2．成人期における特徴を踏まえた、急性期～終末期の看護の概要を理解できる。

授業概要（授業計画）

成人看護総論

1．Ⅰ　成人看護の対象の理解

2．Ⅱ　成人各期の発達課題とその特徴

3．Ⅲ　成人期の生活と健康障害

4．Ⅳ　成人看護の特徴と役割

5．筆記試験・まとめ

教科書

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	成人看護Ⅰ	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義	1年

担当者	小松次郎	資　格	医師	実務経験	有・無	時　間	20時間
担当者	稲葉慎二	資　格	医師	実務経験	有・無	時　間	10時間

授業の目的・ねらい

専門基礎科目において履修した知識を基本に、各系統別の主要な疾患について基礎的知識・技術を習得する。

生徒の到達目標

1．成人患者の特徴を理解し、呼吸器・循環器・血液系・放射線の解剖生理、検査、治療の基礎が理解できる。

授業概要（授業計画）

＜小松次郎＞

呼吸器疾患

1．第１章　呼吸器疾患の基本的知識
第２章　主な疾患とその治療
循環器疾患
第１章　循環器疾患の基本的知識
第２章　主な疾患とその治療
血液疾患
第１章　血液疾患の基本的知識
第２章　主な疾患とその治療
放射線診療
9.　放射線療法
10.　筆記試験・まとめ

＜稲葉慎二＞

1．呼吸器疾患
第１章　呼吸器疾患の基本的知識
第２章　主な疾患とその治療
循環器疾患
第１章　循環器疾患の基本的知識
第２章　主な疾患とその治療
5.　筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門８　成人看護Ⅰ
メヂカルフレンド社　看護学入門7　特論：治療法概説

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	成人看護Ⅱ	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義	1年

担当者	小堀陽一郎	資　格	医師	実務経験	有・無	時　間	12時間
担当者	小堀友恵	資　格	医師	実務経験	有・無	時　間	8時間
担当者	津田直希	資　格	医師	実務経験	有・無	時　間	10時間

授業の目的・ねらい

専門基礎科目において履修した知識を基本に、各系統別の主要な疾患について基礎的知識・技術を習得する。

生徒の到達目標

1．成人患者の特徴を理解し、消化器、内分泌系、脳・神経系、感染症・寄生虫の解剖生理、検査、治療の基礎が理解できる。

授業概要（授業計画）

＜小堀楊一郎＞

消化器疾患

1．第１章　消化器疾患の基本的知識
2．
3．第２章　主な疾患とその治療
7．感染症疾患
8．第１章　感染症疾患の基本的知識
9．第２章　主な疾患とその治療

脳神経疾患

第１章　脳神経疾患の基本的知識
第２章　主な疾患とその治療

10．まとめ

筆記試験・まとめ

＜小堀友恵　＞

1．内分泌・代謝疾患

第１章　内分泌・代謝疾患の基本的知識

4.　第２章　主な疾患とその治療
5.　まとめ

筆記試験・まとめ

＜津田直希＞

消化器疾患

1．第１章　消化器疾患の基本的知識
2．第２章　主な疾患とその治療

内分泌・代謝疾患

3.　第１章　消化器疾患の基本的知識
4.　第２章　主な疾患とその治療
5.　筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門８　成人看護Ⅰ
メヂカルフレンド社　看護学入門９　成人看護Ⅱ

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	成人看護Ⅲ	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義	1年

担当者	関谷　大	資　格	医師	実務経験	有・無	時　間	12時間
担当者	丹司望	資　格	医師	実務経験	有・無	時　間	10時間
担当者	堀玲子	資　格	医師	実務経験	有・無	時　間	8時間

授業の目的・ねらい

専門基礎科目において履修した知識を基本に、各系統別の主要な疾患について基礎的知識・技術を習得する。

生徒の到達目標

1．成人患者の特徴を理解し、運動器疾患、腎・泌尿器疾患、女性生殖器疾患の解剖生理、検査、治療の基礎が理解できる。

授業概要（授業計画）

＜　関谷　大　＞

運動器疾患

1．第１章　運動器疾患の基本的知識
2．
3．第２章　主な疾患とその治療
4．小テスト・まとめ

特論・治療法概説

5．リハビリテーション
6．筆記試験・まとめ

＜丹司　望＞

腎・泌尿器疾患

7．第１章　内分泌・代謝疾患の基本的知識
8．
9．第２章　主な疾患とその治療
10．小テスト・まとめ
11．筆記試験・まとめ

＜堀　玲子＞

女性生殖器疾患

12．第１章　女性生殖器疾患の基本的知識
13．
14．第２章　主な疾患とその治療
15．筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門９　成人看護Ⅱ
メヂカルフレンド社　看護学入門10　成人看護Ⅲ

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	成人看護Ⅳ	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義	２年

担当者	徳丸良太	資　格	医師	実務経験	有・無	時　間	7時間
担当者	寄井秀樹	資　格	医師	実務経験	有・無	時　間	9時間
担当者	野間貴裕	資　格	歯科医師	実務経験	有・無	時　間	7時間
担当者	鈴木　徹	資　格	医師	実務経験	有・無	時　間	7時間

授業の目的・ねらい

専門基礎科目において履修した知識を基本に、各系統別の主要な疾患について基礎的知識・技術を習得する。

生徒の到達目標

1．成人患者の特徴を理解し、皮膚疾患、眼科尿器疾患、歯・口腔疾患、耳鼻咽喉科疾患の解剖生理、検査、治療の基礎が理解できる。

授業概要（授業計画）

＜徳丸良太＞　　皮膚疾患
1．第１章　消化器疾患の基本的知識
2．
3．第２章　主な疾患とその治療
4．筆記試験・まとめ

＜寄井秀樹＞　　眼疾患
1．第１章　眼疾患の基本的知識
2．
3．第２章　主な疾患とその治療
4．小テスト・まとめ
5．筆記試験・まとめ

＜野間貴裕＞　　歯・口腔疾患
1．第１章　歯・口腔疾患の基本的知識
2．
3．第２章　主な疾患とその治療
4．筆記試験・まとめ

＜鈴木　徹＞　　耳鼻咽喉科疾患
1．第１章　耳鼻咽喉科疾患の基本的知識
2．
3．第２章　主な疾患とその治療
4．筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門９　成人看護Ⅱ
メヂカルフレンド社　看護学入門10　成人看護Ⅲ

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	成人看護Ⅴ	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義	1年

担当者	今井幸子	資　格	看護師	実務経験	有・無	時　間	24時間
担当者	村上比奈恵	資　格	認定看護師	実務経験	有・無	時　間	6時間
担当者	西川紀恵	資　格	看護教員	実務経験	有・無	時　間	16時間

授業の目的・ねらい

成人看護の対象の特徴を多面的に把握し、さまざまな状態にある対象の看護の概要を習得する。

生徒の到達目標

1．呼吸器、循環器、消化器、血液系、内分泌系、脳・神経系、運動器、女性生殖器の外科的治療の必要な患者の看護について、診察や治療などの補助、症状への対応、疾患をもつ患者への療養指導など、看護の実践が理解できる。

授業概要（授業計画）

＜今井幸子＞

1．呼吸器疾患の看護
2．　第３章　呼吸器疾患看護の基本　　第４章　呼吸器疾患患者の看護
3．循環器疾患患者の看護
4．　第３章　循環器疾患看護の基本　　第４章　循環器疾患患者の看護
5．脳神経疾患患者の看護
6．　第３章　脳神経疾患看護の基本　　第４章　脳神経疾患患者の看護
7．感染症・結核患者の看護
8．　第３章　感染症・結核看護の基本　　第４章　感染症・結核患者の看護
9．骨・関節・筋疾患患者の看護
１０．　第３章　骨・関節・筋疾患看護の基本
１１．　第４章　骨・関節・筋疾患患者の看護
12．筆記試験・まとめ

＜村上比奈恵＞

1．内分泌・代謝疾患患者の看護
2．　第３章　内分泌・代謝疾患看護の基本
　　第４章　内分泌・代謝疾患患者の看護
3．筆記試験・まとめ

＜西川紀恵＞

1．消化器疾患患者の看護
2．　第３章　消化器疾患患者の基本
3．　第４章　消化器疾患患者の看護
4．血液・造血器疾患患者の看護
5．　第３章　血液・造血器疾患看護の基本
6．　第４章　血液・造血器疾患患者の看護
7．放射線療法・検査
8．筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門8　成人看護Ⅰ　　看護学入門10　成人看護Ⅲ
メヂカルフレンド社　看護学入門９　成人看護Ⅱ

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	老年看護概論	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義	２年

担当者	青野容子	資　格	看護教員	実務経験	有・無	時　間	5時間

授業の目的・ねらい

高齢者の理解に必要な基本的事項を学び、老年看護の視点と実践を理解する。
老年看護の基本的援助の視点とその方法について理解する。

生徒の到達目標

1．高齢者を取り巻く社会と生活を理解し、生活者としての高齢者の視点から老年看護が理解できる。
2．高齢者と家族を支える保健・医療・福祉制度を知り、様々な場面における看護職の役割が理解できる。

授業概要（授業計画）

第１章　　高齢者（老年期）とは何か
　1．Ⅰ　高齢者とからだ
　　Ⅱ　高齢者の心理的・精神的特徴
　2．Ⅲ　高齢者と社会
　　Ⅳ　総合的な高齢者の理解
　3．筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門11　老年看護

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	老年看護	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義	２年

担当者	飯尾智子	資　格	認定看護師	実務経験	有・無	時　間	30時間

授業の目的・ねらい

健康障害をもつ高齢者の日常生活の援助および診療時の援助について学ぶ。
高齢者に多い疾患の特徴を捉え、看護が実践できる基礎的能力を養う。

生徒の到達目標

1．高齢者やその家族に関心を向け、観察・コミュニケーション技術を活用できる。
2．健康障害の特徴や疾病の段階・経過を理解し、対象のニーズに応じた日常生活の援助や看護技術を理解できる。

授業概要（授業計画）

1．
2．
3．
4．
5．
6．
7．
8．
9．

第２章　高齢社会の医療と看護
　Ⅰ　少子・高齢社会の理解
　Ⅱ　高齢者の健康問題
　Ⅲ　高齢者に対する保健・医療・福祉の現状と2025年に向けた改革
　Ⅳ　高齢者看護の機能と役割
　Ⅴ　変化する高齢者看護の場
第３章　高齢者看護の原則
　Ⅰ　高齢者の特性を踏まえた看護の視点
　Ⅱ　高齢者の特性を踏まえた看護の場
第４章　高齢者看護の特徴
　Ⅰ　日常生活の自立に対する援助
　Ⅱ　日常生活における援助技術
　Ⅲ　検査・治療に伴う高齢者の看護
第５章　高齢者に多い疾患と看護
　Ⅰ　認知症高齢者の看護
　Ⅱ　うつ状態
　Ⅲ　骨粗鬆症
　Ⅳ　変形性膝関節症・脊柱管狭窄症
　Ⅴ　大腿骨頸部骨折
　Ⅵ　高齢者に多い慢性疾患
　Ⅶ　悪性腫瘍（がん）
　Ⅷ　感染症

10．筆記試験・まとめ

11．～15．　演習

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門11　老年看護

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	母性看護概論	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義	1年

担当者	菊川真衣子	資　格	助産師	実務経験	有・無	時　間	5時間

授業の目的・ねらい

母性保険の現状と動向を知り、女性の権利と自己決定への支援、安全管理について理解する。

生徒の到達目標

1．母性保健の概要を学び、母性看護の意義と役割が理解できる。

授業概要（授業計画）

母性看護概論

1．Ⅰ　母性看護とは
　　Ⅱ　母性の特徴
　　Ⅲ　母性各期の特徴と看護
2.　Ⅳ　母子保健の現状と動向
　　Ⅴ　女性の健康と権利に関する概念
　　Ⅵ　母性看護
3.　筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門12　母子看護

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	母子看護Ⅰ	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義	1年

担当者	井上　翔太	資　格	医師	実務経験	有・無	時　間	10時間

授業の目的・ねらい

正常および異常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦・新生児の保健指導と看護を行うための基礎知識、技術について理解する。

生徒の到達目標

1．正常な周産期各期の生理的な変化を学び、保健指導と看護を行うための基礎知識、技術が理解できる。
2．異常な経過をたどる周産期の母児の病態生理を学び、異常時の適切な医療処置の方法が理解できる。

授業概要（授業計画）

第２章　正常な妊婦、産婦、褥婦、および新生児の理解
1．　Ⅰ　妊娠
2．　Ⅱ　分娩
3．　Ⅲ　産褥
4．　Ⅳ　新生児
5．筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門12　母子看護

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	母性看護Ⅱ	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義	1年

担当者	菊川真衣子	資　格	助産師	実務経験	有・無	時　間	20時間

授業の目的・ねらい

正常および異常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護について理解する。

生徒の到達目標

1．正常な周産期各期の生理的な変化を学び、保健指導と看護が理解できる。
2．異常な経過をたどる周産期の母児の適切な看護について理解する。

授業概要（授業計画）

1．第３章　妊婦、産婦、褥婦および新生児の看護
　Ⅰ　妊娠の看護
2．　Ⅱ　産褥の看護
　Ⅲ　褥婦の看護
3．　Ⅳ　新生児の看護
4．第４章　妊婦、産婦、褥婦および新生児にみられる異常
　Ⅰ　妊娠の異常（ハイリスク）
5．　Ⅱ　分娩の異常
　Ⅲ　産褥の異常
6．　Ⅳ　新生児の異常
7．第５章　妊婦、産婦、褥婦および新生児の異常と看護
　Ⅰ　妊娠の異常と看護
8．　Ⅱ　分娩の異常と看護
　Ⅲ　産褥の異常と看護
9．　Ⅳ　新生児の異常と看護
10．筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門12　母子看護

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	小児看護概論	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義	1年

担当者	川森淳子	資　格	看護師	実務経験	有・無	時　間	5時間

授業の目的・ねらい

小児看護の対象の特徴を多面的に把握し、小児保健の概要について習得する。

生徒の到達目標

1．小児の特徴、成長・発達と生理を理解し、栄養及び養護について理解できる。
2．小児看護の機能と役割を理解する。

授業概要（授業計画）

第１章　　小児の看護概論
1．　Ⅰ　小児看護の基本
　　Ⅱ　小児保健
　　Ⅲ　小児の成長・発達
　　Ⅳ　小児の栄養
2．　Ⅴ　発達段階ごとの小児の看護
　　Ⅵ　小児の看護
　　Ⅶ　小児の疾病予防（予防接種）
　　Ⅷ　小児の精神保健
3．筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門12　母子看護

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	小児看護Ⅰ	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義	1年

担当者	石井榮一	資　格	医師	実務経験	有・無	時　間	15時間

授業の目的・ねらい

成人とは異なる小児の疾患特徴を知り、各系統別の疾患について習得する。

生徒の到達目標

1．小児のおもな各系統別疾患の病態、検査・診断、治療について理解できる。

授業概要（授業計画）

第２章　主な小児疾患

1．　Ⅰ　小児疾患の特徴
　　Ⅱ　先天性疾患
　　Ⅲ　新生児の疾患
2．　ⅠⅤ　成長・発達の疾患
　　Ⅴ　呼吸器系の疾患
　　ⅤⅠ　循環器系の疾患
3．　ⅤⅡ　消化器系の疾患
　　ⅤⅢ　血液・造血器系の疾患
　　ⅠⅩ　内分泌系の疾患
　　Ⅹ　代謝疾患
4．　ⅩⅠ　腎・尿器生殖器系の疾患
　　ⅩⅡ　脳・神経・筋系の疾患
　　ⅩⅢ　免疫・アレルギー疾患、膠原病
　　ⅩⅣ　感染症
5．　ⅩⅤ　皮膚疾患
　　ⅩⅥ　眼科疾患
　　ⅩⅦ　耳鼻咽喉科疾患
6．　ⅩⅧ　口腔外科疾患
　　ⅩⅨ　小児悪性固形腫瘍
　　ⅩⅩ　事故・外傷と整形外科疾患
　　ⅩⅩⅠ　精神疾患と心身医学
　　ⅩⅩⅡ　そのほかの小児疾患・問題
7．筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門12　母子看護

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	小児看護Ⅱ	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義	1年

担当者	川森淳子	資　格	看護師	実務経験	有・無	時　間	15時間

授業の目的・ねらい

小児看護の対象に応じた日常生活の援助と診療時の補助技術を習得する。

生徒の到達目標

1．小児看護の機能と役割を理解し、小児看護に必要な援助法が理解できる。
2．小児のおもな疾病の概要を学び、健康障害の状態に応じた看護について理解できる。

授業概要（授業計画）

第３章　小児の多様な場における看護
1．　Ⅰ　外科における小児と家族への看護
　　Ⅱ　入院時における小児と家族への看護
　　Ⅲ　地域・在宅で医療的ケアを必要とする小児と家族への看
　　ⅠⅤ　災害時における小児と家族への看護
第４章　小児疾患患児の看護
2．　Ⅰ　プレパレーション
　　Ⅱ　小児看護の特殊技術
　　Ⅲ　特殊な問題をもつ小児看護
　　ⅠⅤ　主な症状に対する看護
第５章　主な小児疾患児と看護
3．　Ⅰ　低出生体重児（未熟児）
　　Ⅱ　新生児の疾患と看護
　　Ⅲ　乳児栄養障害と看護
　　ⅠⅤ　呼吸器系の疾患患児の看護
4．　Ⅴ　循環器系の疾患患児の看護
　　ⅤⅠ　消化器系の疾患患児の看護
　　ⅤⅡ　血液器系の疾患患児の看護
　　ⅤⅢ　感染症患児の看護
　　ⅠⅩ　内分泌および代謝異常症患児の看護
　　Ⅹ　腎・尿器生殖器系の疾患患児の看護
5．　ⅩⅠ　神経系の疾患患児の看護
　　ⅩⅡ　免疫・アレルギー疾患、膠原病患児の看護
　　ⅩⅢ　皮膚疾患患児の看護
　　ⅩⅣ　眼科疾患患児の看護
　　ⅩⅤ　耳鼻咽喉科疾患患児の看護
　　ⅩⅥ　口腔外科疾患患児の看護
　　ⅩⅦ　小児悪性腫瘍患児の看護
7．　ⅩⅧ　整形外科疾患患児の看護
　　ⅩⅨ　精神疾患患児の看護
　　ⅩⅩ　その他の問題を抱える小児への支援
　　ⅩⅩⅠ　小児の救急と看護
8．筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門12　母子看護

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	精神看護概論	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義	1年

担当者	新井基夫	資　格	精神保健福祉士	実務経験	有・無	時　間	20時間

授業の目的・ねらい

精神看護の対象、目的、意義について学ぶとともに心の健康、精神保健福祉の概要について習得する。

生徒の到達目標

1．人間の心の健康を成長・発達・社会適応の面から捉え、精神の健康保持増進を図るために基礎的知識を理解できる。
2．精神保健医療福祉の歴史的変遷から、患者の人権をまもることの重要性を理解できる。
3．わが国の精神医療・精神保健に関して制定された法規を理解できる。

授業概要（授業計画）

第１章　心の健康と発達
　1．Ⅰ　心の健康とはなにか
　2．Ⅱ　脳の発達
　3．Ⅲ　遺伝と環境
　　Ⅳ　発達段階の課題
第２章　心の働きと危惧
　3．Ⅰ　心の不健康と危機状態
　　Ⅱ　自我と防衛機制
　4．Ⅲ　ストレスの心身への影響
　　Ⅳ　人間関係と心の健康
　5．Ⅴ　環境と心の健康
　　Ⅵ　ライフサイクルにおける心の危機
第６章　精神保健福祉の変遷
　6．Ⅰ　精神医療の歴史
　　Ⅱ　わが国の精神保健福祉の歴史
第７章　精神的健康の保持
　8．Ⅰ　精神保健福祉のとらえ方
　9．Ⅱ　精神保健福祉の資源と施策
　10．筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門13　精神看護

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	精神看護Ⅰ	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義	1年

担当者	伊藤益一	資　格	臨床心理士	実務経験	有・無	時　間	20時間

授業の目的・ねらい

おもな精神障害の症状、検査・診断、治療法についての基礎的知識を習得する。

生徒の到達目標

1．精神障害の原因や種類について学び、症状と状態を理解できる。
2．精神障害の診察と検査、治療法が理解できる。

授業概要（授業計画）

第３章　　精神障害者の診療
1．　Ⅰ　精神障害者に関する統計的知識
2．　Ⅱ　精神障害の原因と種類
3．　Ⅲ　精神障害の症状と精神状態
4．　Ⅳ　精神障害の診察と検査
第４章　　主な精神障害の治療
5．　Ⅰ　精神障害治療の考え方
6．
7．　Ⅱ　各障害の分類と治療
8．
9．
10．筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門13　精神看護

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	精神看護Ⅱ	必修・選択	授業形態	開講時期
区　分	専門分野		講義	1年

担当者	岡田慎治	資　格	看護師	実務経験	有・無	時　間	20時間
担当者	出山義洋	資　格	認定看護師	実務経験	有・無	時　間	10時間

授業の目的・ねらい

精神障害をもつ対象の日常生活援助と診察の補助及び精神保健福祉における看護の役割について習得する。

生徒の到達目標

1．精神看護の目的と機能および看護の特性が理解できる。
2．精神疾患患者に対する看護の実際をさまざまな側面から、総合的に理解できる。
3．今日の精神看護の抱える問題と今後の課題について理解し、看護の役割を考えることができる。

授業概要（授業計画）

＜岡田慎治＞

第５章　　おもな疾患

1．Ⅰ　精神障害の見方と患者とのコミュニケーション
2．Ⅱ　精神障害者看護の基本
3．Ⅲ　精神科医療の実際と福祉的視点
4．Ⅳ　精神科看護の場とその看護
5．Ⅴ　経過と看護
6．Ⅵ　症状と看護
7．Ⅶ　治療に伴う援助
8．Ⅷ　統合失調症患者看護の事例
9．
１０.筆記試験・まとめ

＜出山義洋＞

1．Ⅰ　精神障害の見方と患者とのコミュニケーション
2．　　プロセスコードについて
3．　　演習
4．　　演習
5．筆記試験・まとめ

教科書

メヂカルフレンド社　看護学入門13　精神看護

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。